

地域移行促進部会 意見交換会の報告

1. 実施の目的

平成 21 年度に実施した「障害をお持ちの方の地域医療に関するアンケート」結果について報告するとともに、障害がある方や支援者に共通する課題について確認し、安心して暮らせる地域医療のために何が必要か、どんな工夫をしているか意見交換を行う。

2. 実施内容

障害特性の違いを考慮し知的障害、精神障害にわかれて意見交換の場を持つ。
参加はアンケート協力事業所を中心に、当事者、支援者に広く呼びかける。
アンケート報告は、ポイントをつかんで報告し、グループ討議の素材にする。
意見交換会で出された意見で共通するものは、地域移行促進部会に上げていく。

3. 各意見交換会の報告

< 知的障害意見交換会 >

日時：平成 22 年 9 月 9 日（木） 13:30～15:00

場所：杉並保健所 地下講堂

参加人数：27 名（家族、支援者、医療関係者）

内容：
・地域医療に関するアンケート報告および見えてきた課題
・地域医療に関する事例報告
・グループ討議と発表（地域の医療従事者からのコメント）

具体的提言につながる意見

- ・ 受診や入院が困難なことで、重い病気にかかっていたら不安である。また、専門病院の主治医は予約がいっぱいなので、区内で受診できる医療機関や主治医がいると安心する。
- ・ 受診者は病院情報が欲しいが、どういう情報が必要かを医療機関に伝わると良い。また、医療機関側がどのようにしたら受診しやすいかを本人、家族、支援者に伝えることも大切ある。
- ・ 家で行っている体調管理や受診時の対応などの内容を医療機関に伝えることが大切である。

課題としてとらえられる意見

- ・ 本人がパニックになった時などの受診時の心配や医療機関の障害者特性の理解。
- ・ 体調の変化の把握や健康維持のためには早目の対応。

議論が十分にできていない課題への意見

(知的障害者の意見交換会では該当意見がなかった。)

< 地域移行促進部会としての提言 >

本人、家族が身近な地域医療機関に広くアプローチできる条件を作る（民間ベースでの医療機関情報を蓄積し活用できるようにするため、家族や当事者がつどい情報交換や共有を語れる場などを積極的に持ち、情報収集し発信できる医療機関の資料をつくる。）

障害者を診察する際の医療機関側が必要としている情報を知る取り組みや、受診側の願いの動きを医療機関側に提供し、協力関係が出来るよう積み上げていく。

<精神障害意見交換会>

日時：平成22年10月12日(火) 14:00～16:00

場所：杉並保健所 地下講堂

参加人数：28名 (当事者、支援者、ボランティア、委員等)

内容：・地域医療に関するアンケート報告および見えてきた課題
・グループ討議と発表

具体的提言につながる意見

- ・精神障害の方は生活習慣病等、合併症の予防も課題。他科受診は定期健診等活用することも有効。
- ・内服薬の内容や副作用への不安がある当事者が多い
- ・受診者と医療機関との間で、内服薬等に関して調整・仲立ちの役割をする支援者を求めている。現在は訪問看護や保健センターが支援している
- ・精神障害者の第一の相談機関として保健センターがある。
- ・作業所に踏み出すための支援、通えなくなった方への地域のフォロー体制が必要

課題としてとらえられる意見

- ・杉並区では精神科入院病床がない
- ・入院は支援関係をつくるよい機会。入院中は病院担当者が付き支援体制があるが、外来患者には病院のフォロー体制がない。通院が滞った方の地域フォロー体制が必要
- ・薬の処方以外に薬剤師の支援が受けられないか

議論が十分にできていない課題への意見

- ・地域には、どこの支援機関にもつながっていない孤立している方も多い。そういった方の意見を汲み取ったり、その方へ情報を伝えていくことが必要。
- ・入院治療が終わらないうちに退院したとみられるケースがみられる。この際、保健所などに連絡がない場合が多い。地域の支援側では、必ず連絡をしてほしい、と希望する。
- ・但し、支援者側も人的・財政的キャパシティの問題はある。
- ・孤立している一人暮らしの多くの方は通院するので、それら医療機関との協力関係が大事。そこで、区内医療機関に社会資源情報を送り、通院者がそれを見れる状態が作れるようにしていくことが有効。どのような情報に整理するか、など検討し、具体化が必要。
- ・健常者でも精神障害者でも自分の状況を医師にうまく伝えられないことは同じではないか。特別に課題があるか評価し難い。

<地域移行促進部会としての提言>

早期退院の推奨に伴い、病院から地域への情報発信や地域のマンパワーの不足がある。区内精神科医療機関への精神障害者福祉保健サービスや生活支援の情報の発信を検討し具体化する。

ピア相談員との交流や活動の促進を考える。

入院・退院を貴重な機会ととらえ、医療機関と地域の支援者間のネットワークの仕組みづくり(退院前の連絡、ケア会議、継続した連絡方策など)が望まれている。